

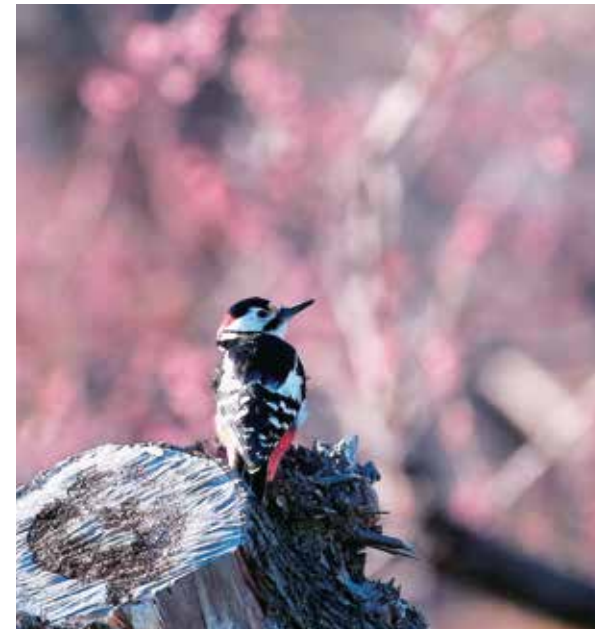


第十回北海道神宮フォトコンテスト入選作品（水谷 美苗）

巻頭特集 円山鎮座百五十年記念特集 **御鎮座当時を知る**

特集 〈開拓の群像〉
三人の箱館奉行 竹内保徳、堀利熙、村垣範正 合田一道氏

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



第十回北海道神宮フォトコンテスト入選作品（山内 佳子）



北海道神宮例祭 「神輿渡御・連合山車巡行・奉納行事・露店出店」 中止のお知らせ

謹啓 陽春の候益々ご清祥の御事とお慶び申し上げます。
平素より当神宮の事に関しまして、格別のご高配を賜り深謝申し上げます。
扱、既に報道等によりご承知の事とは存じますが、変異株による新型コロナウイルス感染症の拡大が予断を許さない状況下であり、感染症の拡大防止に万全を期す為、各種対応が行われております。
北海道神宮と致しましては、この非常事態が一日も早く終息に向かうことを祈りつつ、例祭に関する諸行事につきまして、出来る限り実施する方向で調整してまいりましたが、先の見えない現状に鑑み、誠に恐縮ながら本年の北海道神宮例祭における神輿渡御・連合山車巡行・奉納行事・露店出店(神宮境内)を中止させて頂きたく茲にお知らせ申し上げます。皆様方には大変ご迷惑をお掛け致しますが、諸事情お酌み取り戴きますよう、お願い申し上げます。
尚、宵宮祭・例祭・後日祭につきましては責任役員・総代・正副講長他参列の下、祭典を斎行致しますのでご理解の程お願い申し上げます。

謹白

北海道神宮	宮 司	吉田 源彦
北海道神宮敬神講社	講 長	若林 雅教
年番第九東北祭典区	代表委員長	松野 哲也
山車年番第六西創成祭典区	代表委員長	松野 哲也

社頭風景

十二月～三月



- ❶ 歳旦祭 (1月1日)
- ❷ 煤払い (12月26日)
- ❸ 餅つき (12月27日)
- ❹ 師走の大祓 (12月31日)
- ❺ 元始祭 (1月3日)

元旦

本年の元旦は、分散参拝の呼びかけや、正月授与品の十二月中の授与開始など様々な新型コロナウイルスへの対策を行ったうえで迎えることとなりました。三が日の参拝者数は皆様のご理解ご協力を賜り例年の四割程度の人出となりました。露店もなく、これまででは考えられないような人の少ない境内に寂しさを感じるほどではありませんでしたが、大神様の御加護のもと、感染者も出ずことなく無事新年を迎えることができました。

師走の大祓並びに除夜祭

十二月三十一日(木)午後三時、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、参列を制限のうえ拝殿にて師走の大祓を斎行した後、引き続き本殿にて除夜祭を斎行致しました。

大祓は知らず知らずのうちに犯してしまつた罪や穢れを祓う為に行う神事です。北海道神宮では六月三十日と大晦日の年に二回、大祓を斎行致しております。



6



7



8

天長祭

天皇陛下には二月二十三日、六十一歳の御誕辰をお迎えになりました。北海道神宮では午前十時より天長祭を斎行致しました。祭典では神楽「浦安の舞」を奉奏した後、宮司以下祭員一同で「天長節」を唱和し聖寿の万歳を言祝ぎました。尚、昨年天長祭にあわせ新成人寒中禊会を行いました。本年は感染症への対策として中止と致しました。



浦安の舞

東日本大震災復興祈願祭

三月十一日(木)、岩手県、宮城県、福島県を中心とした太平洋沿岸部を津波が襲い、多くの被害をもたらした東日本大震災から十年を迎えました。この節目の年に御霊の安らかなることを願いつつ、更なる復興を祈念し、全国の神社において東日本大震災復興祈願祭が執り行われました。

北海道神宮においても午前十時より祭典を斎行し、神楽「豊栄の舞」を奉奏致しました。

尚、当宮では発災より社頭において被災地神社への義捐金箱を設置し、集まりました皆様のお志を被災地へとお送り致しております。



豊栄の舞

節分祭

本年は一二年ぶりに節分が二月二日となりました。北海道神宮でも当日午後三時より節分祭を祈請講役員の参列のもと斎行致しました。例年は、祭典終了後神門内特設舞台にて豆打ち神事を行っていましたが、本年は新型コロナウイルス感染症への対策として、神事の斎行を中止と致しました。

祈年祭

二月十七日(水)午前十時、北海道神宮では祈年祭を斎行致しました。祈年祭は年を祈る祭と書きますが、この「年」は「とし」とも読みます。この「とし」は古来稲を表す言葉であり、祈年祭では五穀の豊穰をお祈り致します。当日は海の幸山の幸を捧げ、当宮役員参列のもと祭典を奉仕し、祭典の中では神楽「悠久の舞」を奉奏致しました。



10



9

- 6 古神札焼納祭 (1月14日)
- 7 祈請祭 (1月17日)
- 8 節分祭 (2月2日)
- 9 紀元祭 (2月11日)
- 10 祈年祭 (2月17日)

ひな人形展

祈禱者控殿に於いて二月四日(木)より三月十六日(火)までひな人形展を行いました。



山田祐嗣氏所蔵の明治から昭和の雛人形と当別甲斐の会のつるし雛



現在の社殿

本年は札幌神社(現北海道神宮)が明治四年九月十四日に円山の地に鎮座してより、百五十年の年にあたります。現在では北海道神宮と改称され、建物なども建て直されて当時の面影はありませんが、鎮座当初は札幌神社と呼ばれ、現在とは様子が大きく異なりました。昭和十年の新聞「北海タイムス」の「古老による札幌神社座談会(北の志)」第六十一号掲載)からその様子を伺い知ることができ、座談会には札幌神社第十四代宮司の高松四郎や主典だった藤原三代治も参加致しておりました。

(A氏) 私が札幌に来た時にはもうここに奉遷のあとで、それ迄は御承知の通り元村に近くお祀りしてあった。明治四年にお移りされたのですか? それから一、二年たった

時分でした。その頃円山までお参りするの大変で、当時の御本殿拝殿は六尺に九尺くらいもあつたらうか。よく九尺、二間という事が云われるけれども、それよりもさ、やかなお社だった。社の前に離れてたし、か水原寅蔵さんの寄附した丸太の鳥居が建っていた。唯それだけで他には境内何もなかった。

(B氏) 本殿は南西から北東、すなわち鬼門に向いている。これはかつて円山の土田万平、同善七のお二人から伝聞した話であるが、社地想定に際しておよそ南面すべきもの。もし止むを得ずならば東面すべきものと衆口区々であったと云うが、時に「樺太はどちらだ?」と一声あつて一言もなく東北に向ける事となった。当時判官島義勇氏の胸中には千島樺太に対する御稜威の光被という事が深く、刻まれていたという。

(C氏) 島義勇という方は実にエライ人だ。明治二年十一月十日に札幌に入地して翌年二月十一日札幌から去られた。その間厳寒と戦いながら途方もない大事業をされた。札幌神社の社地卜定にしたところがこの神域を措いていづくに適地があるうか。私の所蔵に先生の「北海道紀行詩」一冊がある。それにも当社地選定の事情や樺太経緯の大抱負が簡単ながら鋭く表現せられていて、よく、エライ方だったと思ふ。

解説(1) 仮本殿が完成したのは明治四年九月、素木神明造りで約二十八平方メートル、他に神饌所、社務所などは翌五年である。当初の境内は約百二十八平方メートルで、周りは雑木竹類が繁茂し熊籠が出没する昼なお暗き荒涼の地であった。当社社務所はお祭りの時以外、人は居らず八年大貫宮司が初めて社務所に移って奉仕経営するようになった。



仮社殿裏面より【明治6年撮影】

(C氏) 判官が一路札幌に乗込まれたについては大いに理由がある。判官は鍋島閑叟公の命令で既に安政四年に北海道樺太を視察されていた。その当時は商人といえども江差から奥地へは入って来なかった時代である。私のところにその日記があつたが北見、根室、日高と多分三四冊となつていたはずである。単に文人としての行脚ではなくして

にはその資力もなかった。下男と一緒に山々を跋渉して集めたのが桜樹数百本で、その中から枯死を見越して百七十本選択の上、百五十本と称して神社に献樹した。ことさらに判官への報恩とか何とか云う意味ではなくて敬神の念を披瀝したものに外ならないらしい。

解説(2) 境内は市街地から離れ訪れる人もなく淋しいものだったので、明治八年大判官の松本十郎自ら村民を指揮し、檜、杉、松、桜、桃など種々の苗木数万本を植え境内を飾り、福玉仙吉が参道の両側に桜百七十本を献植した。その後、白野宮司も桜木を増やし境内の美観に力を注いだ。

(E氏) 神社と村民との交渉は密接だった。村民は昔から朝に夕かと云えば神社の命令で馬を連れモッコをかついで人夫となった。一面祝詞講というのを組織して村民は毎晩各戸交替に宿をして敬神の念を披瀝した。白野宮司の時代にこれが崇敬講となったかと記憶する。白野宮司と云えばあの越後の弥彦から師匠を呼んで神楽を創められた。爾来いく十年札幌神社のお神楽には専ら円山の子供が当って来た。

(G氏) 実際神社の神楽には上田善七さんが骨を折られた。挺身自ら踊られた。結局師匠から善七さんが習ってそれを皆に教えられたわけだった。

(E氏) 豊平の阿部仁太郎さんと円山では先代上田万平さんそして私



春の表参道

の父、これが神社の世話人を仰付かってお上から「札幌神社世話役申付候事」という辞令を頂戴していたんだから、今あれが遺つていたらたいしたものだ。

(F氏) それからよくお山の草刈をした。今で云う火防線もこしらえた。無論防火にも従事したし、境内に池を掘つたのも円山村民であった。

(E氏) 神輿の渡御は明治十二年に始まる。神輿が三基となったのははるか後のことである。

(H氏) 私の実父は開拓使の度量衡係に雇われていたが、お祭りの山車の装置となる、半狂乱の態であったのを幼心にも覚えていた。たしか明治十六、七年頃の事でしたらう。

到るところ地図に物価に物質の産額に頼る詳細を極めたもので、北海道に対する先生の知識と識見とはその頃から準備せられ充分の素地が出来ていたと信じていい。その先生があれだけの創業的、手腕を縦横無尽に発揮して、さて帰京の際のおみやげがコクワの植木一鉢であったとは、農学校のお備教師ブルックス氏が明治二十二年帰米に当たつてやはりコクワを持って帰国したのといわば好一對の手柄であった。

(D氏) 白野夏雲宮司の記録によると、所謂神社山が円山となつて、それから桜見取図によると神山という名称もあるが、今の藻岩山はエンガルシベヌプリと云い今の円山は頂上に岩があつてモイハと云われ今の三角山が円山であつたと聞いている。明治六年出版美濃紙一枚刷りの図を私は所蔵しているが、それにも藻岩山はエンガルシベと明記してある。それから私は札幌へは明治十九年に来たのだが当時女子小学校の生徒を連れてよく参詣した。子供達がよく「滝まで行く」と云つて騒いだ記憶が今も残っている。山の迫つたところに溜池があり池の落口が小滝になつて生徒がザリガニを捕つて遊んだ。この池水を裏門へ引いて噴水を作る計画があつたと聞いている。

(E氏) 明治六年に杉二本を植樹したと思ふ。これが境内植樹の先祖かと考へる。植松六兵衛の育てた苗木を円山の農夫達が境内に植えたが、これはずつと後年のことである。

解説(3) 北海道神宮札幌神社は明治五年四月神祇省から「遷宮ノ日ヲ以テ例大祭ト可被致事」という指示に基き、例大祭日が六月十五日と決まった。明治十二年神輿一基新調、三十二年御鎮座三十年記念祭に際し新たに二基奉納された。

(F氏) 円山は元来御料地であつたが明治二十七年にその三分の二が北海道庁に下附せられ従つて御料地の面積は激減するに至つた。御料地を神社敷地として寄附された問題は私の取扱つた範囲内では、第一回が二ノ鳥居参道右側、次が左側の傾斜地になつている杉の辺り、第三回は御本殿背後の境界という順序であつた。背面の用地に関して神社からは神蔵地帯保存のために二十間だけ移管して欲しいとの依頼で檜の木を界として区画が整然となつた。

その時明治三十四、五年岩村通俊長官時代に円山にある所屬地は入札の結果一年四百二十円で貸下げられ、そこに千島落葉松を育てたけれども収支償わず、一、二年にして小樽の本間豊七氏が富良野に送る苗木養成のため特に貸下を乞うて数年に及んだ。

本間氏返納後は浅羽靖氏等の奔走で札幌区役所に貸下げられ、御料地整理の際二万円はいよ、払い下げとなつた。現公園地がそれである。

現在の神殿が神宮御用材の残部を賜つたことは世間衆知であるが、お屋根の上部には、平岸村ミソマツの御料地から払下げを得た蝦夷松の柁材が使用してあるはずだ。

〔構成・解説 白野 仁〕



拝殿正面【明治11年造営】

(B氏) 越後屋植松三左衛門は六兵衛と云う、親を捜して訪ねあぐみ、遂に開拓使から畑をもらつて定住、秋田杉の苗木を作つた。

(E氏) 福玉仙吉さんが桜を献木した。あの人は島さんに附いて来た人でその後手稲に移つて牛方をしていた。(福玉は島判官の従僕)

(C氏) 島判官札幌を去つて福玉は上手稲に残つた。島判官は佐賀の乱にあわれ露と消えて後その冥福を祈るために献樹した物と思ふ。

(D氏) 元来福玉という姓も実は島判官から戴いたものである。その事を口癖のように話していたという。島判官転任後翁も引退して札幌に在つたが、折柄人々は思ひ、翁のものを神社に献納したけれども翁



歴史から見えるもの(54)

二人の箱館奉行

竹内保徳、堀利熙、村垣範正

ペリー艦隊の来航により箱館の開港が決まり、幕府は安政2年(1855)2月、松前藩周辺を除く蝦夷地全域を上知



村垣範正

させ、6月に竹内保徳を新設の箱館奉行に任命しました。

続いて8月、堀利熙を同じ箱館奉行に任じて江戸勤務とし、翌3年春に竹内が江戸へ、堀が箱館へ移って廻浦も担当しました。廻浦とは蝦夷地の沿岸線の巡見するものです。

さらにこの年7月、村垣範正を箱館奉行に任じて3人制にし、江戸、箱館、廻浦の担当を、交替で勤めさせました。

最初に箱館奉行になった竹内は旗本家に生まれ、父の後を継いで勘定方になり、勘定吟味役に昇進して江戸湾の台場築造に励むかたわら、大砲製造掛、大船製造掛として敏腕を振るいました。箱館奉行に就くと、箱館近郊の開墾や道路開削、医療施

設の改善、農林業、牧畜業の振興に取り組み一方、海防掛だった堀利熙と連名で、五稜郭の築城、弁天岬台場の築造を幕府に進言し、建設工事を進めました。

竹内は、堀と村垣が相次いで奉行になり、交代制になって以降、6年のうち3年間に箱館勤務でしたが、竹内が在勤の年はなぜかニシンが大漁になり、箱館の人々は喜び「ニシン奉行」と呼び、慕いました。

2番目の堀は幕臣の4男に生まれましたが、兄たちが次々に亡くなり家督を相続します。将軍側近の小姓組になって頭角を現し、安政元年(1854)、海防掛として蝦夷地を巡見します。この時、堀と同時に巡視を命じられたのが、3番目の奉行となる勘定吟味役の村垣でした。

村垣は江戸生まれで、祖父の定行は第1次蝦夷地直轄の時の松前奉行(初めは蝦夷奉行、後に箱館奉行と呼ぶ)を勤めました。父は御庭番、つまり幕府の密偵の役目でした。その仕事を受け継いだ村垣は鑄物師に扮して蝦夷地に潜入し、異国船の出没の様子や、松前藩の対応ぶりなどを探り、幕府に報告しました。やがて勘定吟味役に昇進し、海岸防備と松前蝦夷御用を兼ねます。



箱館奉行所

「幕府が自ら蝦夷地を直接経営すべきである」とする復命書を提出します。幕府はこの意見を入れて蝦夷地を直轄地とし、箱館奉行を置くことになるのです。

こうして3人の箱館奉行は交替で勤めますが、文久元年(1861)、竹内は勘定奉行として江戸に戻り、外国奉行を兼務し、遣欧使節の正使として欧州を巡り、緒問題の交渉に当たります。ことに日露の国境線をめぐる交渉は難儀を極めました。だが幕閣が一転され、竹内の努力は実りませんでした。

堀は外国奉行兼務となり、日米修好通商条約締結の全権として渡米します。帰国後はプロシヤとの条約交渉に関わり、調印寸前までこぎつけますが、条約内容がドイツの関税同盟の加入国まで含まれていることがわかり、責任をとって切腹しました。

村垣は、箱館奉行のまま外国奉行、神奈川奉行も兼ねながら神奈川開港に尽くしたうえ、日米修好通商条約批准の遣米使節団の副使として訪米しました。帰国後、箱館に戻っています。村垣が「いもじ奉行」と呼ばれたのは、鑄物師姿を「いもじ」と言ったのがその理由だそうです。

混乱する時代に奉行を勤めた3人の仕事ぶりが偲ばれますね。

◆プロフィール◆
昭和九年(一九三三)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。「定山坊行方不明の謎」で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は「日本史の現場検証」「人間登場」北の歴史を彩る『大君の刀』など。

奉賛会だより

◆奉賛会大祭・総会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症が国内で感染を拡大している状況を受け、本年度予定しておりました「大祭」ならびに「総会」を中止することと致しました。

大祭につきましては、会員皆様の家内安全、心身健全、生業繁栄を祈願致しまして、神職のみにて奉仕をさせていただきます。

また総会につきましては、同封の「総会資料」をご覧頂きまして、返信はがきを左記にてご返送下さいますようお願い致します。

時節柄、何卒ご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

記

一、返送締切 五月二十四日(月)まで

※同封のはがきにご署名ご捺印のうえ返送下さい。

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和二年十一月十六日から三年二月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(敬称略・順不同)

◆新入会員のご紹介

後藤竜

畑井由佳

横浜冷凍株式会社 代表取締役会長 吉川俊雄

横浜冷凍株式会社 石狩物流センター

横浜冷凍株式会社 喜茂別物流センター

株式会社アムールトラスト 大谷 柗洋

横浜冷凍株式会社 札幌営業所

North management企画 代表 齊藤孝憲

二瓶日出司

武田くみ

中嶋啓樹

株式会社ヴァリエーズ 代表取締役 福田宏年

福田宏年

本谷内茂俊

佐藤博雅

浪岡力

白瀧直子

白瀧法明

石井文将

倉本真弓

松下充仁

小林洵子

旅河喜世

岡田あやの

佐々木真由美

山口聡

勝木忠男

早坂聡

池田康二

内藤寛

大関宏典

橘則子

本田大輔

村上淳

久慈哲男

亀田昌和

森藤正巳

中瀬洋志

佐々木美佐江

熊木政誕

堀米裕二

高橋貴美

相原崇人

株式会社シンテック

三崎優

松井裕二

太田元秀

川村勝己

協賛者のご紹介

- ◇十万円
越前屋薫
大泉和夫
中村物流 代表取締役社長 中村紀行
足立誠
有限会社ココウエスト 本山人
久保純 代表取締役 大西仁詩
福士郁弘
株式会社シヨッピング 熊田裕一
宇津野真理
唐澤俊崇
中村美智子
明和工業株式会社 代表取締役 西川明敏
松本哲也
フォービズアローズ株式会社 代表取締役 郷六尚
- ◇二万円
ホクユウテクニカ(株) 代表取締役 北越孝
大乘院薬王寺 住職 田中清元
ヤハラ消防設備(株)
田中則久
- ◇一万円
内山産業(株) 取締役社長 内山源造
岡田みどり
興亜防災設備(株)
駒野幸一
桜井和久
三王印刷(株)
大栄機工(株)
高島建築設計 高島潤一
津島興業 代表取締役 津島明美
出村左官工業(株)
中山シン商事株式会社 中山菊雄
長谷機械商事(株)
重森 豊
平山見也
北陽写真場 代表取締役社長 小田切修
北陽ビルサービス(株) 代表取締役 其田雅人
株式会社町村農場
三上直彦
山崎新一
吉岡砕石工業(株)
吉尾病院 院長 吉尾弘
六花亭製菓(株)
(株)わかさいも本舗
西山眞吾

- 鈴木一司
齋藤恭令
花本政則
河井博
株式会社 共栄水産 代表取締役 山室吉博
三上政輝
佐藤久直
高田博
坂尻康平
吉田法子
遠田深雪
菅原政浩
菅原浩了
長尾恵美子
齋藤知佳留
高橋聖昇
前田憲太郎
武内秀介
中村理
木田重信
安部布美子
池浦志和
伊藤ヨウ子
今川昌樹
岡川一
(株)君津特殊
久保幸子
佐々木真次
多田良子
田中美知子
鶴戸晏子
寺井伸
信本明子
浜口武
堀江正一
松野敏昌
(株)まるいち 齋藤友子
三浦清志
- 高橋忠良
中能雅和
中屋敷左官工業(株)
新岡正
一燈園 西田武
深尾喜陸
北海道電子機器(株)
牧野祐子
馬酔木洋子
(株)みうら保険事務所
三上陵逸
水上信吉
医療法人社団 宮の森皮膚科
盛岡茂美
町田隆敏
山本晃靖
横山公子
吉村邦子
米田光秀
玉置重俊
松野丈夫
對馬眞智子
渡邊靖司
(株)中昭 中井昭一
高橋信雄
植木光敏
村本和正
阿部電気機工 阿部茂樹
福田和子
沖田善輝
松本武志
(医)西野おおくぼ整形外科 大久保隆夫
後藤淳子
齋藤貞夫
藤崎雅士
佐藤秀樹
藤江岩男
株式会社シグナル 代表取締役 赤沼泰弘
下前良
藤田勝也

- 上野 榮
上野 良子
山口日出志
高梨削蹄 高梨桂二
葛西久枝
(株)大関調剤 代表取締役 大関博敬
大黒恵美子
齊藤寧・久美子
安川哲夫
山崎勝
市橋武道
寺島典男
渡辺臣明
小瀧玲子
鳥居幸子
松川伸一
庄田澄子
朴澤大輔
千葉時代
米坂進
盛まなみ
佐藤清
長瀬裕明
坂本和也
松村将之
熊谷巨泰
沼倉雅治
伊藤啓二
札幌ワインマーケット(株) 中野旬太郎
豊田敏志
高取千恵子
高取由季
井上恵賢
星野通孝
小竹ともこ
樋口未来
野口智史
日比野貴樹
伊東裕司
(株)富士札幌エレベーター 代表取締役 蝦名康

- ◇三千元他
東重孝
(株)コウキ 板垣光夫
岩間邦子
大関雅朗
小野まき子
佐々木都紀子
神忠弘
杉本昌三
杉山陽子
香川睦美
高柳節子
滝口伸一
武田美奈子
寺沢一敏
中居毅
繩健一
西良子
(株)バンテック
平間美枝
福本政之
藤野喜久男
鎌水博樹
吉田晶子
鈴木良江
薄田治夫
佐々木幸雄
佐藤勇
関口フミ子
宮下奈巳
中西昭弘
牧康浩
西野浩
千葉光子
市山義晴
富田登代子
妻木悦朗
勝浦栄子
永森奨樹

- 合田雅行
齋藤恭令
花本政則
河井博
株式会社 共栄水産 代表取締役 山室吉博
三上政輝
佐藤久直
高田博
坂尻康平
吉田法子
遠田深雪
菅原政浩
菅原浩了
長尾恵美子
齋藤知佳留
高橋聖昇
前田憲太郎
武内秀介
中村理
木田重信
安部布美子
池浦志和
伊藤ヨウ子
今川昌樹
岡川一
(株)君津特殊
久保幸子
佐々木真次
多田良子
田中美知子
鶴戸晏子
寺井伸
信本明子
浜口武
堀江正一
松野敏昌
(株)まるいち 齋藤友子
三浦清志

- 宮地宏
森分一成
阿部真澄
税理士法人さっぽろ税務会計 代表社員 阿部真澄
杉山二三男
中道和己
長谷部克哉
津川由美子
藤井一徳
澤内公
木澤季之
鷲原壽文
三浦和夫
武田美喜男
木村美智子
長田博
藤島邦洋
中田克幸
佐藤睦子
梶田宏一
吉田光臣
後藤彰
米沢美和子
(株)エビスベル 代表取締役 安藤與志之
大谷国男
金子幸永
佐々木紀久子
菅原政輝
萩野隆章
(株)フラインテックノ 吟良一
多田洋子
辻祐二
富山光博
針谷毅
福園敏行
正木修二
宮下美枝子
村井哲也

- (株)アメリカンホームズコンストラクション 代表取締役 山田裕一
松本清志
藤本桂
内田昇
仁科啓孝
松浦壽
鈴木伸浩
福田賢治
下河原浩
村田賢
金坂孝敏
久保剛
湊堅治
安井裕視
南部士郎
小山内清
伊藤勇一
中川設計房 中川義規
齊藤慎太郎
小川武雄
栗田勝
白澤一夫
坂尾晃司
齊藤啓太
今野豊
鐘信弘
前田生馬
富岡百合子
宮村謙一郎
北村友佳
伊藤裕
川口麻夕
田中欽
小原順子
村上隆盛
榎木律子
小山まりえ